

創刊準備号
いろいろ。

美唄篇



はじめに

本書は「北海道内にある炭鉱遺産をドライブで巡ってみよう。せっかくだから地元の美味しいものも食べたいよね。あっ、おもしろスポットにも寄ってみたいな」ぐらいのお気楽なスタンスで作ってみました。

(この創刊準備号ではその一部しか載せられませんでした…)

気軽に立ち寄れることを念頭に、各所へ訪れるための難易度を設けています。

★☆☆ (初級)

自動車や公共交通機関で訪れることができ、舗装された道路を歩いて散策できます。「とりあえず炭鉱遺構を見てみたい!」という方にオススメです。

★★☆ (中級)

現地までは自動車で訪れることができますが、散策する場所は舗装されておらず道が悪いです。必ず歩きやすい靴を履き、虫除け対策などを忘れないでください。

★★★ (上級)

自動車で近くまで寄れますが、基本的に舗装されていない悪路を歩きます。季節によっては藪で道を遮られ、藪漕ぎしながら歩かないといけません。必ず歩きやすい靴を履き、虫除け対策などを忘れないでください。

炭鉱は山にあります。クマ情報には必ず注意を払ってください。

なお、本書で紹介した場所を訪れる際には一般常識とマナーを守ってください。地元の方々はその地に住んでいます。ご迷惑をかけないように御配慮ください。

また、廃墟や廃屋を探索する前に『廃墟の歩き方 探索篇』のようなガイドブックをご一読されることをオススメします。



炭鉱メモリアル森林公園



炭鉱メモリアル森林公園の看板
奥に立坑櫓が見える



案内板によると一応道はある



朱色がまばゆい（写真は逆光だけど…）入気用と排気用の2基の立坑櫓
公園化にあたって建設当時の色に塗り直された

■ A-COLOR 初の廃墟

炭鉱メモリアル森林公園は、我々 A-COLOR がはじめて訪れた炭鉱遺構です。

道央自動車道美唄インターを過ぎて、さらに道を奥へ東へと進んでいくと我路へと至ります。

美唄国設スキー場を横目に、さらに奥へと進むと炭鉱メモリアル森林公園が姿を現します。

朱塗りの立坑巻揚櫓を遠くに眺めて

いましたが……公園のはずなのに誰もおらず、草が生い茂って道らしきものがかすかにあるだけで、まさに自然そのもの！

「これって公園の廃墟？」というのが正直な感想でした。

案内板によると一応順路はあるようですが…辛うじて、獣道のような道が残っていたので、これをたどるようにして公園内へと向かいました。

■ 遺構が残る公園

巨大な原炭ポケットに差し掛かったあたりで、公園内を芝生刈りをしている方々がいました。美唄市にお住まいの方々のようで、この公園が炭鉱跡であること、かつて炭坑事故があり封鎖された坑口には取り残された方もいた、といったお話を伺いました。

立坑櫓の正面に、小さなコンクリート造りの建物が。美唄炭坑の心臓部、開閉所です。1階にはハシゴや階段が見当たらず、上へ行くことはできませんでした。

ここにはハンゲルでも案内が書かれてました。外国の方もここを訪れるんでしょうか？

開閉所を過ぎると、まさに道無き道を進むような感じで、まるで『天空の城ラピュタ』の遺跡みたいでした。なお、この先にトイレがあるのですが、入口は施錠されていて中には入れませんでした。

この近辺はトイレがないので、訪れる方は要注意！

さらに奥へ進むと、坑口跡がありました。先にお話を伺った炭鉱事故があったときの名残だそうです。

■ 炭鉱遺産を歩こう

北海道には、まだまだ炭鉱遺産があります。そして、それらを後世に残すため、活用するためにいろいろな方々が尽力されています。

後日、再度、この公園を訪れると「そ



巨大な原炭ポケット
採掘された石炭は、ここに集められた



開閉所
美唄炭坑の電力をここで管理していた



公園の奥にある坑口跡

「そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター」による案内板が立てられています。

これを見るだけでも、東美唄一帯の歴史や炭鉱施設を一望できます。比較的簡単に自動車で来られる場所なので、廃墟ファンや炭鉱遺構ファン以外でも、興味があったらぜひ訪れてみてください。我々もここを訪れたのをきっかけに炭鉱遺構巡りにハマってしまいました。



「そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター」の案内板

炭鉱メモリアル森林公園

● 難易度

★★☆ (やや中級?)

公園までは自動車で行けます。公園内は一応道がありますが、未舗装の部分もあるので、靴は歩きやすいものを選びましょう。虫除け対策も忘れずに。ここはクマの目撃情報があるので、クマ情報には必ず注意してください。

● トイレ

おそらく無し (一応、トイレはありますが施設されていません)
この近辺にトイレはないので、アルテピアッツァ美唄、または三菱美唄記念館を使いましょう。

● 所在地

〒 072-0000
美唄市東美唄町一ノ沢

● 連絡・問合せ先

美唄市役所地域経営室
・ TEL: 0126-62-3137

● 見学

公園化・一般公開

● 駐車場

あり 無料

● アクセス (公共交通)

なし

● アクセス (自動車)

道央自動車道「美唄 IC」→道道 135 号美唄富良野線を我路方面へ約 15 分
(そらち 産業遺産と観光より)



沼東小学校



国設スキー場のレストハウスはかつての沼東中学校の体育館



小学校の体育館は鉄骨だけが残っている
(夏はスズメバチの巣があり要注意)



夏に訪れると円形校舎が濃い緑に覆われている

■ まるで宝探し

我々がはじめて沼東小学校を訪れたのは2009年の夏。とある知り合いが「美唄に不思議な形の校舎の廃墟がある」とブログに書いていたのが、きっかけでした。

(『北海道裏観光ガイド』でも記事を書かれています)

その幻想的なたたずまいに我々も興奮し、「行ってみよう！」ということでクルマを走らせたのでした。

ところが下調べもしなかったため、道に迷う迷う。諦めて帰ろうかとも思ったんですが地図や写真、ケータイで調べた断片的な情報と偶然のおかげで、なんとか辿り着けました。このへんのドタバタは、パプーで公開している『ハイキョに行ってきた』でも語られています。

■ 中には入れず…

校舎の1階は水没していました。初めての探索で長靴すら用意していな

かったので、中には踏み込めませんでした。結局、この日は校舎の周りの写真を撮っただけで終わってしまいました。

それでも鬱蒼と生い茂る藪の中に佇む幻想的な校舎、コンクリート製の屋上から芽吹く草木の強さ、そしてただならぬ廃墟独特の空気感是我々の心に感動となって深く刻み込まれました。また、お宝探しの達成感も楽しかったんでしょう。

これ以来、我々 A-COLOR は廃墟巡りにハマってしまいました。

なお、翌年の春先に校舎内へ再アタックを試みたのですが、雪解け水でなお水かさが増したのも断念することに。

ちなみに、校舎内に入った方々の中には、胴長を着て水たまりを渡る強者もいらっしゃるそうです。

■ メガネ校舎

円形校舎として知られる沼東小学校ですが、かつては「メガネ校舎」と呼ばれていました。

今は一棟しか残っていない円筒形の校舎ですが、かつては二棟が連なっており、上空から見るとメガネのように見えたとのこと。

「航空写真画像情報所在検索・案内システム」で、まだ沼東小学校が現役だった頃の航空写真を検索すると、確かに二棟が連なっていました。

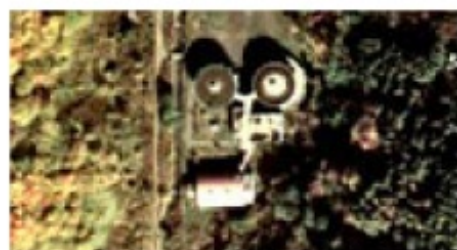
また、美唄市郷土資料館でも当時の写真や模型を見ることができます。



校舎手前の廃車はいつからここに？



夏に訪れると屋上にも緑が
2階と3階にあるシャッターが、
かつて別棟があったことを物語っている



「めがね校舎」だった頃の航空写真
校舎と体育館の間には別棟があった
(航空写真画像情報所在検索・案内システムより)



沼東小学校

● 難易度

★★★（上級）

夏場は藪が濃く、道らしい道はありません。足もとはぬかるんでいるので、靴は歩きやすいものを選びましょう。

虫除け対策も必須です。

また、周囲はクマの目撃情報があります。

校舎は水没しており、老朽化が著しいです（我々の中には入れなかったんですが…）。

なお、心霊スポットとして有名なので、肝試しをする人と出くわす可能性もあるかも。

● トイレ

無し。

アルテピアッツァ美唄、または三菱美唄記念館を使いましょう。

● 所在地

〒072-0000

美唄市東美唄町

● 連絡・問合せ先

びばい炭鉱の記憶再生塾

・TEL：0126-62-3131(代)

● 見学

敷地外より外観のみ見学可能。

敷地内立入禁止

● アクセス（公共交通）

JR 函館本線「美唄駅」→美唄市民バス「美唄駅」（国設スキー場行き）→「国設スキー場前」下車、徒歩2分

● アクセス（自動車）

道央自動車道「美唄IC」→道道135号美唄富良野線を我路方面へ約10分

（そらち産業遺産と観光より）

おわりに

A-COLOR 初の同人誌『いろいろ。創刊準備号』はいかがでしたか？
我々が、はじめて炭鉱遺構巡りをした時と同じルートを紹介してみましたが、興味を持てる記事や写真はありましたか？

今回は紙の同人誌を出す前の準備ということで、電子書籍で出すことにしました。

これを叩き台にして、美唄に残る他の炭鉱遺構や食べ物屋さんなども紹介した「創刊号」を作る予定です。これを紙に印刷し、同人誌即売会デビューを目指したい！ と考えています。

A-COLOR はネット上で、いろいろ活動しています。

A-COLOR ブログ

<http://ukatsu.mo-blog.jp/hibi/>

A-COLOR Facebook ページ

<http://www.facebook.com/pages/A-COLOR/209420209068113>

A-COLOR パブー

<http://p.booklog.jp/users/totokelone>

よろしければ、これらのサイトにも遊びに来てくださいね。

参考文献

そらち炭鉱遺産散歩

著 者：北海道新聞空知「炭鉱」取材班

発行所：共同文化社

廃墟の歩き方 探索篇

監修者：栗原亨

発行所：株式会社イースト・プレス

そらち産業遺産と観光

<http://www.sorachi.pref.hokkaido.jp/so-tssak/html/index.html>

いろいろ。創刊準備号
制作・著作：A-COLOR
2012年2月発行



 **A**colo**R** 

いろいろ。美唄篇 -創刊準備号-

<http://p.booklog.jp/book/44230>

著者：A-COLOR

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/totokelone/profile>

[A-COLORのブログ](#)

[A-COLOR Facebook ページ](#)

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/44230>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/44230>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.